

# 社会科部会

## 研究主題 調べたことをもとに自分の見方や考え方を深め 表現する力を高める指導

### 1 主題について

今年度も、社会的事象に対する見方や考え方を深めるための手立ての工夫、思考の広まりや深まりを効果的に表現する力を高めるための手立ての工夫に重点を置き、昨年度に引き続き本主題を設定した。

### 2 今年度の取組

| 月 日   | 実践内容                      | 月 日    | 実践内容                     |
|-------|---------------------------|--------|--------------------------|
| 4月10日 | 第1回総合研究会<br>研究主題設定・年間計画作成 | 10月30日 | 第2回総合研究会<br>授業研究会（有浦小学校） |
| 9月 8日 | 指導案検討会（有浦小学校）             |        |                          |

※授業研の後、釈迦内小学校 前校長 五十嵐 経 氏から、学区名や地名の由来・釈迦内唐糸姫伝説など、伝説と現存物との関係を紐解く興味深い講話をしていただいた。

### 3 研究内容

#### (1) 授業研究

- ・期 日 平成26年10月30日（木）
- ・会 場 有浦小学校
- ・単元名 5年「自動車をつくる工業」
- ・授業者 田村 直子

#### ① 授業者から

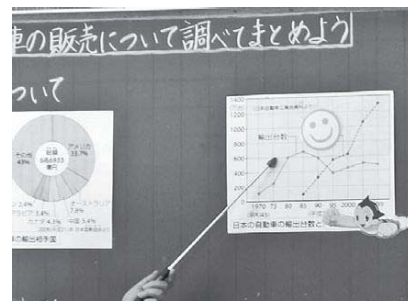
- ・サウジアラビアで日本車のシェアが高いことを示すグラフと、外国で日本車が使用されている写真から、海外での人気の高さや日本車のすばらしさを認識させたかった。そこから学習課題を設定した。
- ・調べ学習における深まりと社会的経験には個人差がある。自動車会社から提供された生産ラインのDVDや冊子で、自動車生産に関する知識をある程度統一して学習を展開することができた。
- ・現地工場の立地条件ではなく利点に目を向けさせるためには、こういった資料の与え方や補助発問が最善であったか。

#### ② 協 議(ワークショップから)

##### 〈視点1〉

資料やその提示の仕方は、児童の調べたことや考えたことを表現させる上で有効であったか。

- ・教科書以外からも資料が豊富に準備されていた。また、課題に迫るとともに児童の実態に適したものだ。
- ・資料の表題やグラフを部分的に隠すことによって、児童が引き付けられていた。どこを隠すかで課題に対するアプローチが変わってくる。
- ・個々に配付はされていたが掲示資料が小さくはなかったか。大きく掲示したり1つの資料をピックアップしたりすることで、現地生産の利点に全体で迫る効果が期待できる。



【部分が隠された資料提示】

## 〈視点2〉

資料についての話し合い活動は、児童の考えを広げたり深めたりする上で有効であったか。

- ・資料から読み取ったことや既習事項を生かした発表があり、多様な意見を教師がうまく集約していた。
- ・教師と全体での話し合いが多かったが、子ども同士の話し合いもあると良かった。
- ・報告や意見交流にとどまることなく、読み取ったことを根拠として現地生産に踏み込んだ話し合いがほしかった。



【話し合い活動】

## (2) 指導助言（北教育事務所山本出張所 指導主事 佐藤 政彦）

- ・社会科は資料を用いて課題解決していく学習である。資料から全体の傾向や変化の大きい部分を適切に読み取っており、読み取ったことを堂々と話す子どもの姿があった。
- ・全体で話し合っ解決していくことが理想。グループ活動を取り入れることも考えられるが、単なる繰り返しにならないための手立てが必要である。本時は全体での話し合いが成立し、互いに高め合う発言が聞かれた。
- ・単元を貫く学習課題を毎時間のなかで意識させることは、社会科における授業の流れを大きく左右する。扱う資料は継続性が必要であり、単元の課題を想起できるものを選択し活用したい。また、本時のめあてが児童の発言を集約して設定されていた。課題追究の意欲を高め継続させる資料と導入であった。
- ・資料の提示の方法は表現させる上で有効であり、問題解決的な学習が展開された。児童から引き出された問題～予想～調べる～考える～解決～振り返るという学習過程が話し合いを深め考えを深めさせることにつながる。教師のコーディネート力が問われる。
- ・本時のねらいは日本の工業生産が貿易や輸出に支えられているという特色をつかむことである。国内消費だけでなく海外販売によって収益が上げられることや、現地生産における輸送費などコスト面から価格と費用の関係に注目させることもできた。なぜ外国に輸出するのかなぜ海外で生産するのかを考えさせることは、5年生としては深まりすぎる感もある。
- ・海外での販売はどのようになっているか、何が分かったのかを子どもたちに話させたい。資料が多すぎると児童の考えが拡散し、話し合いがしぼりきれなくなる。社会科として資料から疑問を出させ資料で解決する流れを作り、ゴールの姿を逆算して課題の設定や資料の選択、学習活動を吟味したい。

## 4 成果と課題

## (1) 成果

- ・単元の学習課題を生かした資料を選択し提示したことは、児童にとってめあてに迫り、考えを表現するために効果的であった。
- ・資料を読み取る力が養われており、調べ学習の土台となっている。

## (2) 課題

- ・資料を読み取り予想や自分の考えをもたせる際には視点を設定する。また、話し合いを深めるための発問や提示方法を精選する必要がある。